

写真



Tsuru's native son artist Makoto Masuda devoted years to depicting the paths of old Paris. His paintings can be seen at the Makoto Masuda Museum of Art.

写真

増田誠画伯

画家がパリで想う故郷

都留市ふるさと会館に併設して設けられた「増田誠美術館」。そこには、パリのさりげない日常生活や場所、飾り気のない人物を愛し、古き良き時代のパリの哀愁をキャンパスに描き続けた

増田誠画伯の作品が展示され、心豊かなひとときを過ごそうと訪れる美術愛好家の姿を見つけることができます。

30歳を過ぎて絵画の道を志した画伯の渡仏の資金をつくるために、都留中時代の同級生がスクーターの後ろに乗せて絵を売り歩いてくれたというエピソードもあります。また、生まれた故郷の都留市とその後暮らした釧路市は、画伯のふるさとを想う気持ちが縁で友好都市提携をし、現在も交流を深めています。国際的な大画家と呼ぶにはあまりに誠実で純朴な人柄は、パリの人々へ向けられた温かい眼差しにも表れており、画伯の絵は遠いパリをも身近に感じさせる不思議な力で見られるものに語りかけてきます。



増田誠氏

●プロフィール/大正9年、谷村町生まれ。昭和13年に都留中（現都留高）を卒業。終戦後、北海道釧路市へ移り、25年得意の絵を生かして看板会社を設立。27年から一線美術展に出品し始めすぐに受賞を重ねるが、32年単身渡仏。シェルブール国際展グランプリ、ル・サロン銀賞、同金賞など受賞を重ね、サロン・ナショナル・デ・ボザール会員、ル・サロン・ドートンヌ会員、ル・サロン無鑑査などフランス画壇で活躍した。平成元年4月9日、肺炎のため死亡。都留市名誉市民第1号。